2026年11月20日

MIGA コラム「新・世界診断」

米国の対中接遇外交
-ワイン・音楽・軍事演出に見る多層的メッセージ-

武蔵野大学国際総合研究所　客員研究員
伊 集 院 健 夫

2026 年 9 月、習近平国家主席の米国訪問をニュースで追っていて、会談の中身とは別に、興味をそそられる場面がいくつもあった。

まず驚いたのが、トランプ大統領夫妻がワシントン郊外のアンドルーズ統合基地まで出向き、到着した習近平主席夫妻を出迎えたことだった。米国大統領が外国首脳を空港まで出向いて迎えるのは、近年では異例だという。

レッドカーペット、儀仗隊、21 発の礼砲。そして頭上を飛んだ 2 機の B-1B 戦略爆撃機。

貿易、安全保障、台湾、AI、半導体。米中間の課題はいずれも簡単ではない。そんな相手を、米国はどう迎えたのか。

ワイン、音楽、軍事演出。一見ばらばらに見えるこれらを追っていくと、今回の接遇には「歓迎」だけではない、もう一つの顔が見えてくる。

ホワイトハウスは一連の公式歓迎を「American strength and hospitality（米国の力と歓待）」と表現した。

一杯のワイン、中国語の柔らかな歌、そして B-1 や B-2 といった戦略爆撃機。何とも不思議な組み合わせである。今回は、そんな「接遇」のいくつかを私なりに取り上げてみたい。

ワインが呼び起こした 1972 年

なかでも目を引いたのが、ホワイトハウスの国賓晩餐会で乾杯に使われたワインだった。

外交の場では、どの国の、どの銘柄を選ぶのかが、賓客への敬意や両国関係へのメッセージになることがある。

今回選ばれたのは、カリフォルニアのシュラムスバーグ「Blanc de Noirs」というスパークリングワインだった。ホワイトハウスは、その選択が 1972 年のニクソン大統領訪中時、周恩来首相との「Toast to Peace（平和への乾杯）」で供されたシュラムスバーグのワインにちなんだものだと説明している。

1972 年は米中国交樹立の年ではない。しかし、長い敵対から両国が対話へと動き出した象徴的な年だった。なお、1972 年に供されたのは 1969 年の「Blanc de Blancs」であり、今回と

Copyright©2026 MIGA. All rights reserved.

まったく同じワインではない。

半世紀以上を経て、同じワイナリーのスパークリングワインを再びテーブルに載せる。

「いまは問題が多いが、両国には対話を重ねてきた歴史もありますよね」

そんな記憶を、一杯のワインで静かに呼び起こしたようにも見える。少なくともワインについては、米国側自身が「なぜこれを選んだのか」を説明していた。では、音楽はどうだったのか。

「月亮代表我的心」が持つ二つの顔

晩餐会で流れた「月亮代表我的心（月は私の心を表す）」は、まず中国側への心のこもった歓迎として聞こえる。

訪問は中秋節の時期と重なっていた。中秋節といえば月である。しかも習主席自身も晩餐会の祝辞で、中国ではちょうど中秋節を祝っていることに触れている。

この曲は、中国大陸だけでなく、台湾、香港、東南アジアなど、中国語圏で広く親しまれてきた。国家を象徴する歌ではなく、人々の暮らしや懐かしい記憶と結びついた曲を選ぶ。そこには、人々が共有する感情に触れようとする心遣いも感じられる。

ただ、この曲にはもう一つの顔がある。この歌を広く知らしめたテレサ・テン（鄧麗君）は台湾出身で、1989年には中国の民主化運動を公然と支援したことでも知られている。

中国の最高指導者を迎える晩餐会で彼女の代表曲が流れたことで、歓迎とは別の意味を連想する余地も生まれる。

中秋節に合わせた歓迎と考えるのが自然だろう。米国側も、そこに台湾や民主化を意識した政治的な意図があったとは説明していない。それでも、同じ一曲に台湾や民主化の記憶を重ねて受け止める人がいたとしても、不思議ではない。外交の場における音楽の面白さは、そんな多義性にもあるのかもしれない。

「茉莉花」と「歌声与微笑」がつなぐ記憶

音楽によるもてなしは、晩餐会だけではなかった。

同日、メラニア夫人と彭麗媛夫人がスミソニアン国立アジア美術館を訪れた際、地元のHope Chinese Schoolの子どもたちが「茉莉花（ジャスミンの花）」と「歌声与微笑（歌声と微笑）」を披露した。

中国を代表する民謡「茉莉花」は、2017年の米中首脳交流でもトランプ大統領の孫たちが披露した曲である。今回、再びワシントン地域の中国語学校の子どもたちが同じ曲を歌った。意図的だったのかは分からないが、1972年のワインと同様に、過去の良好な記憶をもう一度呼び起こすようにも聞こえる。

一方の「歌声与微笑」は、歌と笑顔を持ち帰り、友情を広げようと歌う素朴な曲だ。彭麗媛夫人はファーストレディーである以前から、中国を代表する歌手として活動してきた。

Copyright©2026 MIGA. All rights reserved.

プロの歌手ではなく子どもたちが中国語で歌ったことも合わせて考えると、彭夫人個人への敬意と、次世代の交流という二つの意味を重ねた演出のようにも見えてくる。

「One Day More」が呼び起こす連想

晩餐会では、ミュージカル『レ・ミゼラブル』の「One Day More」も演奏された。

1832 年のパリ蜂起を目前に、人々がそれぞれの思いを胸に「明日」を迎えようとする場面の曲である。『レ・ミゼラブル』といえば、香港の民主化運動で「Do You Hear the People Sing?（民衆の歌)」が歌われたことを思い出す人もいるだろう。今回演奏されたのは別の曲だが、『レ・ミゼラブル』という作品そのものに香港の記憶を重ねる向きがあっても不思議ではない。

さらに歴史をさかのぼれば、1920 年代には周恩来や鄧小平ら若き中国人たちがフランスへ渡り、欧州での生活や政治活動を経験した。とりわけ鄧小平にとって、フランス滞在はその後の政治的人生につながる重要な時期となった。その鄧小平が後に進めたのが、中国を外の世界へ大きく開いた改革開放である。

だからといって、米国側がこうした歴史まで意識して「One Day More」を選んだと考える必要はない。

音楽には一つの正解があるわけではない。送り手の意図を離れて、受け手の知識や経験によって、さまざまな歴史や物語が重なっていく。そこもまた、外交の場で音楽を使う面白さなのだと思う。

軍事演出が示した「力」

文化的な演出と強いコントラストをなしていたのが、空を飛んだ軍用機だった。

到着時のアンドルーズ統合基地では、2 機の B-1B 戦略爆撃機が上空を通過した。翌日のホワイトハウスでの公式歓迎式典では、B-2 ステルス戦略爆撃機 1 機と F-22 戦闘機 4 機によるフライオーバーが行われた。

戦闘機だけなら、歓迎や軍事儀礼の演出とも受け取れる。しかし、そこに長距離攻撃能力を持つ戦略爆撃機まで加わると、見る側が受ける印象は少し変わる。

「あなたを歓迎しています」

と同時に、

「われわれの力も見てください」

と言われているようにも感じられる。

ホワイトハウス自身が一連の公式歓迎を「American strength and hospitality」と表現したのは象徴的である。歓待と力。その二つを同時に示すこと自体が、今回の接遇の特徴だったのだろう。

興味深かったのは、アンドルーズで B-1B が通過した際、轟音にトランプ大統領が一瞬反応し、隣の習主席が飛び去る機体を目で追った場面だった。緻密に組まれた儀礼の隙間から、首

Copyright©2026 MIGA. All rights reserved.

脳たちの生身の表情がふと顔をのぞかせる。歓迎と力が同居した今回の訪問を象徴する一幕にも見えた。

一方、習主席は晩餐会の祝辞で、トランプ夫妻による「多くの特別な手配」と「細部にわたる心遣い」に謝意を示し、「家にいるように感じる」とまで述べた。

「力」を見せる米国側の演出と、周到なもてなしに謝意を示した中国側。この対比もまた興味深い。

卓上の保温ボトル

格式張った場に、妙に生活感のあるものもあった。

晩餐会の写真を見ると、習主席夫妻の席にはそれぞれ保温ボトルが置かれている。習主席の黒いボトルについては、日本のタイガー魔法瓶の製品ではないかと、SNS や一部メディアで話題になった。写真から同社製品との類似が指摘されているものの、メーカーなどによって公式に確認されたものではない。

政治的摩擦が続く日中関係。その一方で、米国主催の公式晩餐会で、中国の最高指導者の席には保温ボトルが置かれている。

半世紀の米中外交史を背負ったワインの隣に、日常使いを思わせる保温ボトルが並ぶ。格式ある国賓晩餐会のテーブルとしては、どこかちぐはぐで、その取り合わせには思わず可笑しみを覚える。

言葉の外側にある外交

公式発表や共同文書には、外交の骨格が並ぶ。しかし、その周囲に配置された演出からも、さまざまな意味を読み取ることができる。

ワインは米中対話の「歴史」を呼び起こし、音楽は人々の「感情や記憶」に触れ、頭上を飛ぶ爆撃機は米国の「力」を示した。相手の文化に敬意を払い、友情を歌いながら、自国の力も隠さない。そこには、歓迎と牽制、親しさと警戒という、一見相反するものが同居していたように見える。

米国側は一連の公式歓迎を「American strength and hospitality」と位置づける一方、習主席はトランプ夫妻の「細部にわたる心遣い」に謝意を示し、「家にいるように感じる」と述べた。

同じ外交の場でも、送り手が込める意味と、受け手が受け取る意味が必ずしも一致するとは限らない。

もちろん、どこまでが意図されたメッセージで、どこからが見る側の読み込みなのかは分からない。

ただ、首脳たちの発言や合意文書だけでなく、注がれた一杯のワイン、一曲の音楽、そして頭上を通り過ぎた爆撃機に目を向けてみると、外交は少し違った表情を見せる。

2026 年 9 月のワシントンでは、公式発表に書かれた言葉の外側でも、もう一つの米中外交

Copyright©2026 MIGA. All rights reserved.

が繰り広げられていたのかもしれない。

以上

参考資料

1. 米国ホワイトハウス「習近平国家主席・彭麗媛夫人のホワイトハウス訪問に先立つ詳細発表」2026年9月21日
   https://www.whitehouse.gov/briefings-statements/2026/09/first-lady-melania-trump-releases-details-ahead-of-his-excellency-xi-jinping-president-of-the-peoples-republic-of-china-and-madame-peng-liyuans-visit-to-the-white-house/
2. 米国ホワイトハウス「習近平国家主席・彭麗媛夫人を迎える国賓晩餐会の詳細」2026年9月24日
   https://www.whitehouse.gov/briefings-statements/2026/09/first-lady-melania-trump-releases-details-on-the-state-dinner-with-his-excellency-xi-jinping-president-of-the-peoples-republic-of-china-and-madame-peng-liyuan/
3. 米国ホワイトハウス「トランプ大統領夫妻、歴史的な中国国賓訪問を終える」2026年9月25日
   https://www.whitehouse.gov/releases/2026/09/president-trump-first-lady-conclude-historic-china-state-visit/
4. 米国ホワイトハウス「メラニア・トランプ夫人と彭麗媛夫人、スミソニアン国立アジア美術館を訪問―米中文化と次世代交流」2026年9月24日
   https://www.whitehouse.gov/briefings-statements/2026/09/first-lady-melania-trump-and-madame-peng-liyuan-visit-smithsonian-national-museum-of-asian-art-highlighting-sino-american-artwork-culture-and-the-next-generation/
5. 中華人民共和国外交部「トランプ米大統領主催の国賓晩餐会における習近平国家主席の乾杯挨拶」2026年9月25日
   https://www.mfa.gov.cn/eng/gjhdq_665435/3376_665447/3432_664920/3435_664926/202609/t20260925_12031253.html
6. Air & Space Forces Magazine「中国指導者のワシントン訪問でB-1、B-2爆撃機とF-22戦闘機が飛行」2026年9月24日
   https://www.airandspaceforces.com/air-force-bombers-fighters-xi-china-dc-visit/
7. Schramsberg Vineyards「1972年―ニクソン大統領と周恩来首相の『Toast to Peace』」掲載日記載なし
   https://www.schramsberg.com/timeline/1972-2/
8. 朝鮮日報「習近平主席を前に流れた鄧麗君の『月亮代表我的心』―ホワイトハウスの選曲に注目」2026年9月27日
   https://www.chosun.com/international/us/2026/09/27/H2YID7ES2JD57NALV6MUQM3ABM/
9. ノラ・ワン「鄧小平のフランス時代（Deng Xiaoping: The Years in France）」『The China Quarterly』第92号、1982年12月、698-705頁（Cambridge University Press オンライン版 2009年2月17日）
   https://www.cambridge.org/core/journals/china-quarterly/article/deng-xiaoping-the-years-in-france/E339F52CC26CD86183B354DB9FD02F49
10. ジェームズ・マイケル・マクミラン「習近平主席の保温ボトル、日本の老舗タイガーブランドとの類似が話題に」『Dim Sum Daily』2026年9月28日
    https://www.dimsumdaily.hk/xi-thermos-cups-linked-to-japan-century-old-tiger-brand/

Copyright©2026 MIGA. All rights reserved.

2026年11月20日

著者紹介

伊集院　健夫　武蔵野大学国際総合研究所　客員研究員



早稲田大学卒。通商産業省（現　経済産業省）入省。
1989 年から 2002 年まで、IEA 緊急時対応（SEQ）、欧州エネルギー憲章条約、多国間鉄鋼協定、OECD 鉄鋼委員会、G8 再生可能エネルギータスクフォース（沖縄サミット）などの交渉に順次従事。途中、1996 年から 1999 年には、ワシントン DC に駐在。
2002 年以降、通商交渉調整官、韓国室長として、主に韓国との FTA 交渉や経済協力・北朝鮮関連業務に従事。その間、訪朝経験も 2 回あり。
2013 年には、JOGMEC（現　独立行政法人エネルギー・金属鉱物資源機構）において資源外交に携わり、民間企業の世界各国における石油・ガス、鉱物資源の利権確保の支援を行う。
また、2016 年からの九州（福岡）勤務では、九州の産業国際化（地域産品の海外展開、スタートアップ企業の立ち上げなど）に携わり、福岡市貿易振興審議会委員、九州経済国際化推進機構参与なども務める。
2018 年、韓国室長（再任）、国際戦略情報分析官、地域通商政策研究官をつとめ、主に韓国との通商政策（輸出管理、旧朝鮮半島出身労働者問題）に携わる。2022 年退官。
現在、JX 金属戦略技研株式会社　シニアフェロー、国立音楽大学　監事を務める。

Copyright©2026 MIGA. All rights reserved.